



会長 小野寺 伸 浩
幹事 及 川 昭 宏
会報 猪 股 育 夫

例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2771回例会(Web例会) 2021. 2. 25 No.28

本日の出席率

・本日の出席率 100%

会長要件 小野寺伸浩会長

2月も最終週となり、来週は3月、いわゆる年度末です。皆様いかがお過ごしでしょうか。日も長くなり白鳥も北帰行を始めています。ほんとうにご苦労なことです。

今月は「平和構築と紛争予防月間」です。ロータリーの友2月号(P21)に視点というコーナーがあり、2520地区ガバナーの記事が掲載されています。水沢東RCのバナーが後藤新平の「自治三訣」を記して作られているようです。内容は「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう」というものです。詳しくはロータリーの友をお読み下さい。

個人的には、岩手県水沢出身というところにひかれております。能力が高かったようで、後藤新平は、医師、官僚、政治家であり、台湾総督府民政長官、南満州鉄道(満鉄)初代総裁、逓信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市第7代市長、ボーイスカウト日本連盟初代総長、東京放送局(のちの日本放送協会)初代総裁、拓殖大学第3代学長を歴任されております。

内務省衛生局員時代には、日清戦争の帰還兵に対する検疫業務を行う臨時陸軍検疫部事務官長として、広島港似島で検疫業務に従事し、国内にコレラが蔓延することを防ぎました。

その後、台湾総督府民政長官、満鉄総裁を歴任し日本の南方、大陸進出を支え鉄道院総裁として、国内の鉄道を整備しました。又、関東大震災後に内務大臣兼帝都復興院総裁として、東京の帝都復興の立案・推進にも従事し、今の東京の基礎を作りました。

ほんとうにスーパーマンですね。亡くなる直前には「金を残して死ぬのは下だ。仕事を残して死ぬのは中だ。人を残して死ぬのは上だ。」という言葉を残しています。私もロータリアンとして、少しでも近づけるよう努力したいと思います。

幹事報告 及川昭宏幹事

- ・ガバナーエレクト事務所より
会長エレクト研修セミナー開催の案内(オンライン)
日時 3月7日(日) 13:00~(12:45~接続可)
※次期クラブ会長は義務出席
- ・ドリーム・キッズ通信が届く
今秋のドリーム・キッズ公演 9/11(土)・9/12(日)予定
- ・「ザ・ロータリアン」誌が届く

今週のスピーチ

「諺について」 岩淵栄市会員
今日は、漢字検定試験の一環で勉強しております「諺」について抜萃して皆さんと一緒に勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

- ・阿吽の呼吸
互いに微妙な気持ちや調子がぴたりと合う事。寺院の対面の狛犬、金剛像の口元は「あー、うんー」と呼吸している、いつも一緒である。
- ・独楽の舞い倒れ
自分一人が張り切って物事をやってみたが、結局は一人相撲の無駄な事をしてしまったことのたとえ。
- ・桂馬の高上がり
勢い余って軽はずみな行動を取る事。又、相応の力がないのに高い地位に立って失敗する事。

- ・虎穴に入らずんば虎子を得ず
リスクを背負わない結果はない。仕事をやる時には必ずリスクを伴います。リスクを回避してやっても成功はない。穴に入らなければ虎の子は得られない。
- ・小糖三合有って婿へ行かず
少なくとも財産、貯えが有ったら気苦労の多い婿に行かず、独立して生計を立てよという意味。
- ・米の飯より思し召し
ご馳走してくれたり物をくれたりする事よりも、それ以上にそれをしてくれた人の情が素晴らしい。
- ・塞翁が馬(人間万事塞翁が馬)
人生思いがけない事で幸運を招いたり、不幸に転じたりする。だから一喜一憂せず生きるべし。塞翁は昔の中国の北界に住む老人。勝っていた馬が逃げたが、その後一頭の馬を連れて帰って来た。老人の子がその馬に乗ったところ怪我をしてしまった。怪我をしたおかげで兵役を免れることが出来た。
- ・酒は爛、肴は刺身、酌は鬘
酒を飲むには程良い爛がよく、酒の肴は刺身がよく合う。酌をして貰うなら若い女性が限る。鬘は、日本髪の部分で、転じて若い女性のこと。
- ・駿河の富士と一里塚
富士山と街道の一里塚とは全く比較にならないという例。一里塚とは、街道に置かれた一里毎に土を盛った目印。
- ・雑魚の魚交じり
取るに足りない身分不相応な者が、大物の中に入って交じっている事。
- ・五十にして四十九の非を知る
人生五十年とした時に、終わりに近くなった過去を振り返り、自分の人生は間違いだらけと悟る。その様にならないように日々身を正しくして生きるべきという教え。
- ・秋風が立つ
男女間の愛情がさめること。「秋」と「飽きる」とかけた言葉。
- ・いづれ菖蒲か杜若
二人の美しい女性を見た時にどちらも美しく甲乙つけがたいという意味。
- ・一押し、二金、三男
女性を口説く時の要件、男っぷりの良さは最後。やっぱり押しが一番、お金をもっていないとだめでしょう、最後に男っぷり。
- ・秋茄子は嫁に食わずな
秋の茄子はおいしいので嫁に食わずのはもったいない。あるいは、秋の茄子は体を冷やすのでよくない。あるいは、秋の茄子は種が少ないので子種が少

- なくなるといけない。いろいろ説がある。
 - ・息の臭さは主知らず
自分の息の臭さは気がつかない様に、自分の欠点も自分で気がつかない。
 - ・犬も歩けば棒に当たる
犬はあちらこちらを歩くから、人の振り回す棒に当たる羽目になることから、なまじでしゃべるとろくなことがない。反対に、行動することで思いがけない幸運に巡り合うかもしれないという使われ方もする。
 - ・色男、金と力は無かりけり
美男・色男と言われる男は一般的に財力と腕力はないと言われているのが、最近は美男・色男の条件よりも財力が優先されている。
 - ・牛に引かれて善光寺
昔、善光寺の近くに住む老女が、さらして置いた布が牛の角に引っ掛かりそのまま走っていくのを追いかけているうちに善光寺に入り、その縁で善光寺にお参りする様になった。その後いいことが沢山起こったことから、自身の意でなくても唯かに誘われ、良い方向に導かれることをいう。
 - ・老いたる馬は道を忘れず(老馬の智、老馬道を知る)
老馬はこれまで歩いた道をよく知っていて迷わないことから、経験豊かでその方面の判断が適切である。
 - ・岡目八目
何かをしている自分よりも、傍で見ている者の方が冷静に観察ができるので、事の良し悪しがよく見え正確に判断ができる。岡目は傍目と書き、囲碁を見ている人は対局者自身より八目さきの手まで見通す事ができる。
 - ・起きて半畳、寝て一畳
必要以上の富を望んであくせくしてもつまらない。どんな立派なお屋敷に住んでも、一人が占めるスペースは起きている時は半畳、寝ている時は一畳あればすむという意。
 - ・鬼も十八、番茶も出花
どの様に器量の悪い女性でも年頃になれば娘らしい魅力が出てくる。鬼の娘でも十八歳という年齢になれば魅力が出る。質の劣る番茶でも出花は良い香りがするという意から。
 - ・蝸牛、角上の争い
極めて小さな世界の出来ごと。蝸牛とは、かたつむりのこと。蝸牛の左側の角に領地を持つ国と、右側の角に領地を持つ国が領地を争ったとされる話。小さいことで、あまりごちゃごちゃ言わない方がよいと私は思います。
- 以下、紙面の都合上割愛させていただきます。